

滋賀森林インストラクター会

会報・第25号 2019年12月31日



樹氷で化粧した雨乞岳(2019.12.13. 東近江市 甲津畑町 鈴鹿の森調査にて)

目次

1. 「100年後に残したい鈴鹿の森」現地調査	事務局	2～4 頁
2. 山を活かす、・・・交流会 2019	梶谷 栄治	5～6 頁
3. 緑の少年団 指導者研修/個別指導	事務局	7 頁
4. 2019年度定例研修会の総括	小西 民人	8～10 頁
5. 2019 近畿連絡会研修報告	佐々木建雄	10～13 頁

「100年後に残したい鈴鹿の森」現地調査

今年度の滋賀森林インストラクター会最大の事業は東近江市からの委託事業「100年後に残したい鈴鹿の森」選定のための現地調査です。東近江市市民環境部「森と水政策課」が選定した計20カ所の候補地を、全14回の現地行き、延べ31名の滋賀会会員の参加で現地調査を完了することができました。ご協力をいただいた会員の皆さんに感謝します。現在、小西研修担当理事を中心に最終報告書を作成する段階です。

調査項目は、森の位置(緯度経度標高)、分布の範囲(面積)、調査個所の地形・斜面の方角・地質、調査個所の植生状況(樹種、林齢、対象樹種の優占度、巨木の有無、着生植物、森の健全度など)、周辺植生の状況、森としての貴重さ、エコツーリズムや環境学習などへの活用、鈴鹿地方の人々との関わり、など計27項目。詳細で専門的な報告が要求されています。調査個所までの行程は急斜面の山登りや登山道が整備されていない上級者のコースもあり、体力的にも相当タフな調査でした。とは言え、伊勢湾から濃尾平野、北アルプスから南アルプスまで、さらに滋賀県側では伊吹山から三上山まで琵琶湖全景を見渡せる御池岳山頂からの眺望は鈴鹿山系の懐の深さを実感できる貴重な体験でした。(事務局)

調査日	調査地	& 対象樹種	滋賀会講師
4月29日(月祝)	御在所岳	アカヤシオ群落	佐々木建雄、小西民人
6月17日(月)	愛知崖	ユクノキ林	小西、下川茂、高橋優 関澤友規子、橋本啓子
同日	神崎川源流	モミ・ツガ・アスナロ林	同上5名
7月16日(火)	君ヶ畑	アカガシ・ブナ混成林	佐々木建雄、小西民人
7月26日(金)	竜ヶ岳太尾	アカガシ林	小西民人、高橋優
8月19日(月)	竜ヶ岳	シロヤシオ群落	小西、下川、佐々木
8月22日(木)	日本コバ政所道	モミ林	小西民人
9月25日(水)	銚子が口	ウリハダカエデ林	小西民人、高橋優
同日	瀬戸峠～風越山	シャクナゲ群落	同上2名
11月5日(火)	御池岳T字尾根	ブナ林、シャクナゲ群落	小西民人、高橋優
11月21日(木)	御池岳	オオイタヤメイゲツ林	小西民人、高橋優
12月3日(火)	千草街道	巨木並木	小西民人、高橋優
12月6日(金)	神崎川源流	トチノキ林	小西民人、高橋優
12月9日(月)	藤原岳西尾根	カナクギノキ林	下川茂、高橋優
12月13日(金)	タイジョウ	シャクナゲ群落	小西民人、高橋優
同日	杉峠頭	ブナ林	同上2名
12月19日(木)	八風谷	アスナロ林	小西民人、佐々木建雄
同日	八風峠周辺	シロヤシオ群落	同上2名
同日	釈迦岳	ブナ林	同上2名

鈴鹿の森調査



11/21 御池岳から白山を望む



12/03 千草街道イヌシデ



12/03 千草街道巨枯木



12/06 根の平峠



12/06 根の平峠スギ巨木



12/06 神崎川源流トチノキ



12/09 藤原岳カナクギノキ



12/09 茶屋川沿いトチノキ



12/09 三筋の滝



12/13 タイジョウ尾根沿い



12/13 タイジョウ霧氷



12/13 杉峠



12/13 タイジョウの霧氷



地面に落ちた霧氷

鈴鹿の森調査終盤 12 月の現地調査の写真を掲載しました。調査の様子を伝えることはもとより、様々な表情を見せる鈴鹿山系の自然を紹介したかったのです。特に、樹木の枝に着いた霧氷は初めて見て感動しました。空気中の水蒸気が直接枝に氷結するものですが、風が吹いてくる方向に成長していくそうです。ニシキギの枝の翼のように平たく氷が伸びています。日が当たって気温が上昇したり、樹に振動を与えたりすると、パラパラと雪のように降ってきました。

鈴鹿の森調査は、滋賀会会員であり「森と水政策課」に勤める水田さんが企画されたものです。鈴鹿の山を知り尽くした森林インストラクターの視点で森を選んでいきます。調査を通じて滋賀県の豊かな森林資源、森林文化を知ることができました。

(事務局 高橋)

山を活かす、山を守る、山に暮らす 交流会 2019

梶谷 栄治

「森林山村の魅力を発し、資源の積極的は保全や活用を！」の取り組みの一環として10月5日(土)、今年も昨年と同じ長浜市余呉町ウッディーパル余呉に於いて、滋賀県主催「山を活かす 山を守る 山に暮らす交流会2019」が開催されました。滋賀会では、計8名のスタッフが参加して、展示やキノコ汁の調理販売など例年同様の活動を行いました。

会場内には、様々な演目が公演される中央ステージやチェーンソーの競技などが行われる広場が設けられ、さらに県内37団体のテント出展ブースが設置されていました。



中央ステージでは、バンド演奏、山村での優れた活動が紹介されました。また、功労者に対しての表彰や山村での魅力発信トークなどがプログラムされて、山にかかわる交流を深める企画が繰り広げられていました。また中央ステージのすぐ近くの広場ではチェーンソー・アートの実演や、太い丸太をチェーンソーで加工するベンチづくり競技などが行われ、多くの人が見っていました。

沢山建ち並んだテントでは各団体ごとに特徴ある出展がされていました。

そのうちの一つ、我が滋賀森林インストラクター会のテントでは、メイン看板の下に、佐々木会長自作のいろいろな種類の木で作ったドングリを、皮を剥いだ枝に吊して展示し、見学者の注目を集めていました。写真展示では、森の恵みを中心とした写真～いろいろな木の実など～や危険植物の写真など森の一端を紹介しています。また、森と琵琶湖を繋ぐ湖へ流れ込む河川の図も掲示しました。

体験コーナーでは、好みの葉を組み合わせでのパウチを作る「木の葉のパウチ」実施しました。例年この体験コーナーは評判が良く、今年もたくさんの人が木の葉のパウチを作っていました。





すっかり滋賀森林インストラクター会の名物になったキノコ汁。今年もキノコや豚肉そして野菜もたっぷり入ったキノコ汁を来訪者に食べていただきました。今回の交流会に滋賀県知事の三日月さんが来訪され、すべてのテントを見て回られたのですが、我がテントに訪れてキノコ汁を買ってもらいました。そのおかげか、今年もキノコ汁を完売しました。

それ以上に人気を集めたのが中川会員の力作の「どんぐりコロコロ」。竹の樋を組み合わせて繋いだレーンにクヌギのどんぐりを転がして遊ぶ遊具ですが、幼い子供たちが夢中になってどんぐりを転がして、なかなか「どんぐりコロコロ」から離れようとしません。お母さんたちも我が子の遊ぶ姿を写真に撮って楽しんでおられました。



(事務局より)

今年の交流会の運営は、昨年同様県から委託を受けたびわ湖放送(株)が担当しています。しかし、展示テントの設営が事前説明とは違い戸惑うことが多くありました。例えば、支給された展示用テーブルが壊れて使えないものがあったり、テーブルクロスが支給されておらず古く汚れたテーブルに展示品を置かざるを得なかったり、会場に傾斜があるため展示テーブルのレベル調整をすると説明していたにもかかわらず実施されなかったり、テントの横幕が外されていて隣のテントとの仕切りがない状態だったり.....これらは昨年実施されていたことで、事前説明で実施するといったことまでされていなかったもので、アンケートにクレームとして書いておきました。他の参加団体からもクレームがあったのではと思います。

～緑の少年団 指導者研修会/個別指導～

事務局より

令和元年度の「緑の少年団サポート事業」（滋賀県緑化推進会の委託事業）は、「指導者研修会」7回、受講した指導者48名。「緑の少年団個別指導」5回、参加団員が170名という実績でした。講師として参加していただいた会員の方は延べ37名です。ご協力ありがとうございました。

【指導者研修】

開催日	開催場所	滋賀会講師
7月28日(日)	西部南部地区：びわこ地球市民の森	佐々木建雄、高橋優
7月29日(月)	湖北地区：きんせの森	佐々木建雄、下川茂
8月23日(金)	湖北地区：高山キャンプ場	小西民人、下川茂、高橋優
8月26日(月)	中部地区：高取山ふれあい公園	小西民人、関澤友規子、 中川仁男
8月27日(金)	高島地区：ビラデスト今津	佐々木建雄、下川茂 橋木啓子
8月28日(水)	甲賀地区：みなくちこどもの森	水田有夏志、小西民人、高橋優
9月 8日(日)	中部地区：河辺いきものの森	関澤友規子、水田有夏志 橋木啓子、高橋優

【個別研修】

開催日	少年団名	滋賀会講師
令和元年		
10月02日(水)	長浜市：永原小 緑の少年団	下川茂、橋木啓子、高橋優、 小西民人
10月12日(土)	近江八幡市：近江八幡 緑の少年団	(台風19号のため中止)
10月24日(木)	米原市：山東小緑の少年団	佐々木建雄、中川仁男 下川茂、高橋優
11月09日(土)	大津市：大津市 緑の少年団	梶谷栄治、高田裕美子 小西民人、高橋優
11月26日(火)	長浜市：朝日小緑の少年団	下川茂、佐々木建雄、梶谷栄治
12月04日(水)	米原市：山東小緑の少年団	下川茂、中川仁男

～2019年度の定例研修会を総括して～

研修担当 小西 民人

今年度は次のように5回の研修会を実施しました。敬称略です。

- ① 特別回 3月31日(日) 大津市・太神山林道 (報告者; 平田) 下見 3/23 高橋・小西
参加者 9名 (佐々木、高橋、平田(2)、高田、関澤、上萩、FW 馬場、小西)



コウヤミズキ(マンサク科)



オオカメノキ(ガマズミ科)



ヤシバノカミナリ(根状菌糸束)

- ② 第1回 5月12日(日) 多賀町・高取山 (報告者; 関澤) 下見 5/6 梶谷-橋木-関澤-小西
参加者 6名 (佐々木、平田(2)、橋木、関澤、小西)



コウカンアオイ(ウラボシ科)



フデリンドウ(リンドウ科)



イヌザクラ(バラ科)

- ③ 第2回 7月7日(日) 米原市・伊吹山 (報告者; 高田) 下見 7/2 関澤・小西
参加者 7名 (高橋、高田、水田、橋木、関澤、小西、平田(登山口から))



ゲンナイツウロ(ワロツウ科)



ヤマツナミツ(シソ科)



イブキツウロ(ワロツウ科)

- ④ 第3回 9月23日(月) 大津市・太神山林道 (報告者; 高橋) 下見なし
参加者 5名 (高橋、高田、橋木、関澤、小西)



マルバノキ(マンサク科)



コウヤミズキ(マンサク科)



クロコノマチョウ幼虫

- ⑤ 第4回 11月17日(日) 多賀町・高取山 (報告者; 関澤) 下見 11/10 関澤・小西
参加者 5名 (高田、橋木、関澤、小西、FW 馬場)



コウヤボウキ(キク科)



バイカオウレン(キンポウゲ科)



タカノツメ(ウコギ科)

今年度の定例研修会は、昨年度実施した研修地の中で好評であった高取山と、昨年私が調査した場所で比較的貴重な植生が見られる太神山林道を研修地として組みました。例年なら年4回、今回は奇数月に研修会を設定する年回りでしたが、太神山林道では早春に咲く樹木があり、それを目的に3月に特別回の枠を作りました。その結果、年5回となりました。また、第2回は太神山林道の予定でしたが、下見の前に確認したら、取り立てて見るべきものがなく、急遽、伊吹山に変更することとしました。そんなこんなで、今年度は3つの研修地を季節を変えて回る年度となりました。それぞれの回の詳細は報告

書の内容を精査してください。

総括としては、過去数年間と同じような傾向で、参加者の少数化と固定化が顕著です。次年度は、研修場所をもう少し工夫して、今まで行ったことのない、何に会えるかわからない、ワクドキのコースを設定してみたいと思います。

近年、森を歩いてみて感じることは、以前にはほとんど見られなかった九州が分布の中心のアオモジが、県内のあちこちで見かけるようになったことや、ナガサキアゲハやツマグロヒョウモン、クロコノマチョウなどのような南方系のチョウが幼虫から見られるようになったなど、温暖化を示す事象が多く見られるようになったことです。南方系の外来種による被害も多く耳にするようになりました。研修を通して、今の森やそれに深いつながりのある琵琶湖に起こっている問題点を洗い出して社会に提起していくことも森林インストラクターとしての役割と思うのですが、どうでしょうか。会員の皆さんの様々なご意見・ご提案・ご協力をよろしくお願いします。

2019 森林インストラクター近畿連総会研修報告

佐々木 建雄

- 実施日時 2019年11月30日（土）～12月1日（日）
- 研修地 兵庫県丹波篠山市、丹波市
- 滋賀会参加者 小西民人、高橋優、佐々木建雄
- 研修内容 以下記載通り

1日目

丹波竜の化石発見物語



のどかな田園風景広がる丹波の里に、突如大型の恐竜が出現！

こんな見出しで写真とともにニュースが流れたら、全世界が大騒ぎになること間違いなしでしょう。しかし、現実にはそのようなことはあるはずもなく、実はこの写真、兵庫県丹波市山南町にある、丹波竜の里公園内にある実物大（全長15m、全高7m）の模型なのです。

国内最大級といわれる草食恐竜・丹波竜（タンバティタニス・アミキティアエ）の化石が発見されたのは、平成18年8月7日のことで、発見者は長年化石の調査を続けてきた足立冽氏と旧友である村上茂氏。

発見者の一人である村上茂氏から発見の経緯やこぼれ話をうかがった後、化石発掘現場に案内していただいた。

村上氏によれば、当時のご本人は化石などには全く興味がなく、たまたまサラリーマンを定年になり、することがなくなったのを契機に、旧友である足立氏から誘われて発掘調査を始めたそうです。ところが、調査開始から1時間半後に、岩から突き出た骨のようなものを発見し、鑑定の結果、恐竜の骨の化石であることが判明、世界的な発見であることがわかり大騒ぎとなりました。

専門家でさえ20年、30年かかっても発見できないものを、全くの素人である村上氏の手によりたった1時間半で発見されたのですから、ビギナーズラックもいいところです。

これを機に、大がかりな発掘調査が第1次（平成19年）～第6次（平成23年）まで展開され、実に多くの化石が発見されました。丹波竜以外の恐竜の化石も多く発見されていますが、丹波竜の化石は、下に示したイラストの着色部分が発見されています。



発見者：村上氏



丹波竜の発見現場である川代溪谷。
現れている地層は1億年前のもの。



さて、化石発見後の村上氏の人生は、推測の域を出ませんが、マスコミの取材攻勢、講演会の依頼殺到、もちろん丹波竜関係の事業にも関与等々、悠々自適であったはずの人生は大きく変わったもの

と思われます。事実、丹波竜の里公園の施設建設には、村上氏の私費も投じられたとうかがいました。人生の転機は、どこにどのように待ち受けているかわかりません。

さて、丹波竜の発見物語の興奮冷めやらぬうち、本日の宿舎である「新たんば荘」に入り、18:00より夕食懇親会が始まりました。丹波篠山が発祥の地といわれている「ぼたん鍋」を囲み、地元保存会の方から「デカンショ節」の振り付け指導を受けるなど、和気あいの雰囲気の中、一次懇親会から二次会へと移り、他府県の参加者と交流を深めました。

2日目

1. ひょうごの森づくり現場を見学

「兵庫県森林動物研究センター」を訪ね、生物多様性の高い森、野生動物と共生する森、災害に強い森をつくるため、高齢人工林を部分皆伐し広葉樹を植栽している現場を案内してもらい、概要の説明を受けた。

多岐にわたる内容なので、印象に残ったトピックス的事項の紹介のみに留める。

(1)センダンの実験的栽培

熊本県で、耕作放棄地を利用したセンダンの育成が行なわれているという情報を得て、当研究センターでも試みようということになり、センダンの試験栽培が開始されたとのこと。センダンは成長が早く、材はケヤキに似て緻密であり、内装材や家具などに用途が見込めるという。スギ、ヒノキなどの伐期が最低でも30～40年は要するのに、センダンは15年～20年で伐採が可能となり、子、孫の代まで待たなくても、自分の代での収益が見込めるという魅力があり、将来が楽しみな試みである。

(2)ウリハダカエデに注目

ウリハダカエデは、シカの不嗜好性樹種であることに加え、①高木性で乾燥した尾根筋から湿潤な谷筋まで広範囲にわたり生育できる ②兵庫県全土に分布している郷土樹種である ③材は白く、カエデ材として使用できる ④メイプルシロップが採取できる、などの利点があり、今後の広葉樹の造林事業に期待が持てる。

なお、これら一連の事業は、平成18年度から徴収が始まった「県民緑税」でまかなわれているとのこと。県民一人当たり800円/年という額は、同年に始まった「琵琶湖森林づくり県民税」と同額である。

2. 日本一低い分水界

もしも海面が100m上昇し、真っ先に本州が東西に分断される場所があるとしたら。

そんな場所が兵庫県に存在するという。その場所は丹波市氷上町石生（いそう）地区で、海拔はわずか95.4m。普通、分水嶺といえば山の尾根を思い浮かべ、特に中部地方では3000m級の山岳地帯を想像するが、このように低い分水界が現実存在しているということは驚きである。丹波市内の国道175線を南下して、県道7号線との交差点の信号には「**水分れ**」と表示があり、この辺りの地名として古くから存在しているということは、昔の人はすでにこの場所が分水界であることを知っていたことになる。この地に降った雨は、北へ流れると由良川を経て日本海へ、南に流れると加古川を経て瀬戸内海へ流れ込むことになる。

日本一低い分水界

水が向こう側に流れると瀬戸内海
へ 70km、
手前側に流れると日本海へ 70kmの
水分れポイント。



3. 木の根橋

樹齢千年と推定される大ケヤキの根が、幅 6m の川をまたいで、向こう岸の土に根を張っているという、珍しい現象である。

なぜこのようになったかという、もともとこの根のところに土橋がかけられていたところケヤキの根が橋の中に侵入し、そのまま向こう岸に渡り、成長肥大を重ねた結果いう次第。

あまりに太い根に成長したため、土橋は撤去され、すぐ横にコンクリートの橋がかけられたとのこと。根のすぐ横に見えているのが、コンクリート橋の欄干である。



今回の研修は盛りだくさんで、とても内容を網羅することはできず、紙面の都合で多くを割愛させていただいたこと、ご了承をお願いします。

この研修を通し、兵庫会スタッフの皆さんの親身なおもてなしに、心より感謝を申し上げます。来年は滋賀が開催県となります。多くの参加を得、喜んでいただける研修になるよう努めたいと思いますので、滋賀会会員のご協力をよろしくお願いいたします。

編集後記

会報第 25 号（2019 年度下半期号）をお届けします。恒例となりました年末ぎりぎりの発行です。

今年度滋賀会の活動は事業や参加イベントが多く、すべてを掲載することができませんでした。その中でも、2021 年に滋賀県で開催される全国植樹祭の準備事業として実施された県や甲賀市などが主催の「グリーンジャンボリー」と東近江市主催の「植樹祭プレイベント」は参加者が多いイベントで、滋賀会から「グリーンジャンボリー」では 10 名、「植樹祭プレイベント」では 4 名のスタッフが参加しました。再来年の植樹祭本番に向けて来年度も開催される予定です。機会をあらためて、紹介したいと思います。

東近江市「植樹祭プレイベント」

カツラの大木を囲む子供たち（11/23）

では、よい年をお迎えください。（高橋）

